

岐阜県関市小瀬地区調査

小川大地

1. はじめに

岐阜県関市小瀬地区は関市街地から西北西の方角にある集落であり、長良川南岸に位置する。また、観光産業として小瀬鵜飼がおこなわれており、鵜飼と生活が密接に関係し、営まれている地域である。本調査は昨年度から継続する関市教育委員会からの委託調査・関市小瀬地区における鵜飼集落の総合的な調査の一環である。

2. 調査の概要

調査日 2018（平成30）年12月10・11日

調査者 上杉和央（教員） 小川大地・竹内祥一郎（博士前期課程1回生）

鈴木更紗（学部2回生） 森島一貴（関市教育委員会文化課）

調査内容 聞き取り調査・石造物調査

12月10日の午前には小瀬地区の土地改良の変遷を記した「小瀬土地改良碑」の調査をおこなった。午後は足立太一鵜匠の母である足立氏から、鵜飼を実際に行う鵜匠や船頭ではなく、鵜飼の家を支える女性の役割、小瀬地区の農業や講などの集まりについて話を聞いた（写真1）。

12月11日午前は、2手に分かれ、上杉・小川班は永昌寺、竹内・鈴木班は八幡神社にてそれぞれ石造物調査をおこなった。その後、合流し岩佐昌秋鵜匠家の船頭である藤井氏に船頭の仕事や鵜飼で使用する道具について話を伺った。午後は小瀬地区で農業を営んでいる尾関氏に農業をはじめとした小瀬地区の景観の変化や、農作業の1年間のルーティーンについて、また実際に作っている農作物について話を伺った（写真2）。

なお、鵜飼の実態の比較調査として小瀬鵜飼と共に国指定無形民俗文化財である「長良川の鵜飼漁の技術」を構成する長良川鵜飼の調査を2018年7月30日におこなった。



写真1 足立鈴枝氏への聞き取り

(2018年12月10日竹内祥一郎撮影)



写真2 尾関二郎氏への聞き取り

(2018年12月11日上杉和央撮影)